

## 2010年度教養文化研究所第2回講演会報告

教養文化研究所員 天 野 宏 司

実施日時：11月26日（金） 15：00～16：30  
講 師：坂下 善英（さかした よしひで）氏  
題 目：佐渡の観光振興とスポーツツーリズム  
場 所：本学：第2講義棟7405教室



前・佐渡国際トライアスロン事務局長 坂下善英氏を迎えての教養文化研究所主催2010年度第2回講演会が11月26日（金）15時より、第2講義7405教室で行われた。演題は「佐渡の観光振興とスポーツツーリズム」であった。

坂下氏は、佐渡観光協会に長くお務めになり、需要の落ち込む冬の佐渡観光を商品化し、雇用の創出を行った「佐渡冬紀行」や、アースセレブレーションの立ち上げなど、さまざまな観光イベントを仕掛け、佐渡の観光振興に尽力された方である。観光協会の法人化の際には事務局長として腕をふるわれ、同協会を退職後は、佐渡国際トライアスロン事務局長として、同大会の運営にあたるほか、佐渡ロングライド210、佐渡ヒルクライム大会、トキマラソンなどを企画・運営してスポーツツーリズムの実践にご活躍され、この10月で事務局長職を引かれた方である。

坂下氏は、佐渡の観光における課題を、①時間距離が遠いこと、②情報発信能力に劣ること、③従来の団体旅行型から個人旅遊型への需要の変化に対応し切れないことなどを挙げ、これらを解決するために上述の「冬紀行」などのほか、地域住民自身による「ふれあいガイド」など、さまざまな仕掛けに取り組んできたことを話された。

そのような取り組みのひとつとして、佐渡国際トライアスロンや佐渡ロングライド210、佐渡ヒルクライム、トキマラソンなど、スポーツイベントを新たに創設し、実施してきた経緯を説明された。今日、「するスポーツ」・「みるスポーツ」・「ささえるスポーツ」の三本柱を軸にしてスポーツツーリズムの浸透を図る方向性が国からも示されているが、全島を挙げてこれらのイベントにより旅客誘致を図り、これらの経済効果が億単位にのぼるとの概算を示されながら、一方で、実現するにあたりいかにして地域の協力を取り付けるか、その困難さを実体験に基づき語られていた。

その上で来訪者に対するもてなしを尽くすことが観光振興の切り札にして唯一の術であると力説され、最後を締めくくられた。

当日は本学学生、教職員、一般市民の方を含め大勢の来場者があった。佐渡市は本学が取り組む「学生参加による〈入間〉活性化プロジェクト」の舞台である入間市とは姉妹都市であり、縁も深い。遠路ご出講頂いた坂下氏に深謝する。